工学部

Ⅰ　教育水準　.....　教育 7-2

Ⅱ　質の向上度　.....　教育 7-4

Ⅰ　教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1.　教育の実施体制

期待される水準を上回る

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、機械系、電気系、化学系といったディシプリン型の教育を行う学科に加え、システム創成や社会基盤等、総合工学を教授する学科も加え、社会の要請に十分に応える多様な分野をカバーする学科で構成されているとともに、社会的要請の変遷を勘案した見直しが行われている。教員は大学院ないしは研究所に所属しており、工学部の学科目は４部局に所属する教員が兼担している。実学としての工学教育実施のため、企業に所属する技術者・研究者を非常勤講師として採用するなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、教育問題検討委員会、工学教育推進機構、各学科のカリキュラム委員会が設置され、講義科目の活発な更新など教育内容・方法を更新し、改善する体制が取られている。また、ファカルティ・ディベロップメント（FD）に関しては、工学教育推進機構を中心にして、学部として、先進的工学教育講演会、工学部新任教員研修会、教育力を比較する国際ベンチマーキング等を展開するなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、工学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、工学部が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

2.　教育内容

期待される水準を上回る

[判断理由]

「教育課程の編成」については、教養学部でのリベラルアーツ教育から３年次、４年次での専門教育を、講義、演習、実験、卒業研究（制作）と教育目的を勘案した体系的な教育課程が編成されている。また、数学、生命・バイオ、工学倫理、現代技術、エネルギー総論等の共通講義やものづくり教育等の特徴ある授業を提供するなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、学生からの講義内容評価の分析に基づく、講義内容の改善や講義科目の改廃・新設を活発に行っている。また、同窓会、運営諮

問会議を通じた社会からの要請に応えた教育内容の改善を行っている。さらに、「スペシャル・イングリッシュ・レッスン」の設置、海外派遣を含むインターンシップ制度等を実施するなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、工学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、工学部が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、分野の特性を踏まえて、各学科において講義、演習、実験実習（卒業研究、卒業制作を含む）が適切に配置されるとともに、そのような講義形態を有効に機能させるために、大学院学生によるティーチング・アシスタント（TA）を配置し、教育の質の向上に努めるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、すべてのシラバスがウェブサイト上に公開され、学生は自ら履修計画を設計できる。また、「ものづくり創造性工学教育」としての教育プログラムを開発し、講義・実験から課外活動までを見渡した主体的な活動を奨励している。さらに、当該学部独自の学生顕彰制度を整備するなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、工学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、工学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、約 90%の学生が修業年度で卒業し、退学率は 1.4%であることや、学生受賞の件数も多く、学生は高いレベルの学力や資質・能力を身に付けるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、卒業年度の最後に自己評価による達成度評価で、基礎学力、問題発見・解決能力について達成することができたと評価するとと

もに、専門分野以外への理解力、チーム力、情報処理能力、未踏の領域への対応力についても身に付いたと評価するなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、工学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、工学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、卒業生の約 80%が大学院修士課程に進学する。就職する者は、製造業、通信、エネルギー、公務員、金融業など多岐にわたり、工学的手法を活用して人類社会の継続と発展に寄与できる指導的人材の養成という教育目的が果たされているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、就職先企業からの学部卒業生に対するアンケート結果によれば、総合的な基礎知識、基礎学力、問題発見・解決能力が高く評価されているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、工学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、工学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は２件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。